

W-BRIDGEの活動について

- 1. プリヂストンの環境経営活動
- 2. W-BRIDGE研究・活動概要

株式会社ブリヂストン 中央研究所兼環境推進本部フェロー
早稲田大学環境総合研究センター W-BRIDGE 副代表
平田 靖

1. プリヂストンの環境経営活動

1-1. プリヂストンの概要

- 社名 株式会社ブリヂストン
(英文社名 Bridgestone Corporation)
- 本社所在地 東京都中央区京橋一丁目10番1号
- 設立年月日 1931年(昭和6年)3月1日
- 創業者 石橋 正二郎 (いしはし しょうじろう)
- 代表取締役CEO 津谷 正明 (つや まさあき)



代表取締役CEO 津谷正明



(株)ブリヂストン本社(東京)

● 業績データ

創業時(1931年)	
・ 資本金	100万円
・ 従業員数	144人

現在(2011年12月末)	
・ 資本金	1,263億5,400万円
・ 連結売上高	3兆243億円
・ 連結純利益	1,029億円
・ 連結従業員数	143,124人
<hr/>	
・ 単体売上高	9,712億円
・ 単体純利益	338億円
・ 単体従業員数	16,019人

1-2. 商品紹介

タイヤ事業 (2011年度 連結売上構成比84%)

乗用車用タイヤ、トラック・バス用タイヤ、建設・鉱山車用タイヤ、産業車用タイヤ、農業機械用タイヤ、航空機用タイヤ、二輪自動車用タイヤ、リフト材料・関連技術 他



多角化事業 (2011年度 連結売上構成比16%)



1-3. プリヂストングループの世界の生産・開発拠点



1-4. 創業者の事業観と企業理念

【創業者 石橋正二郎の言葉】

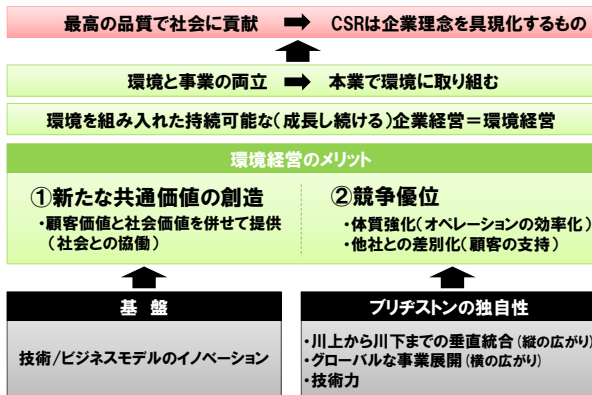
「私の事業観は、単に営利を主眼とする事業は必ず永続性なく滅亡するものであるが、社会、国家を益する事業は永遠に繁栄すべきことを確信するのであります。」



【企業理念】

使命	最高の品質で社会に貢献
心構え	誠実協調
	進取独創
	現物現場
	熟慮断行

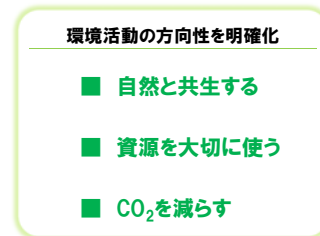
1-5. プリチストンの環境経営



1-6. プリチストングループの環境宣言



「持続可能な」社会の構築に向けて、2011年5月 環境宣言をリファイン

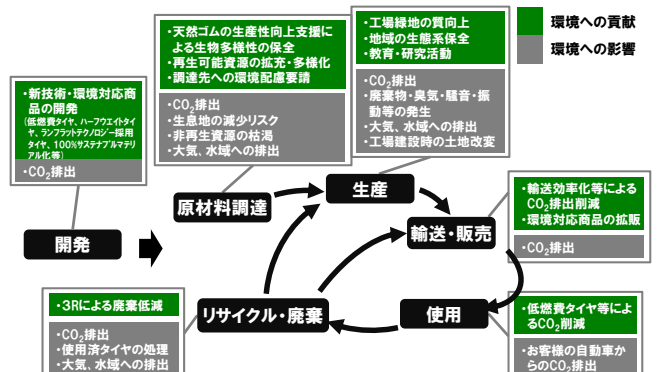


「持続可能な」社会の実現に向けた取り組みを推進

1-7. プリチストングループの環境長期目標



1-8. 環境長期目標に向けた取り組み <事業活動と環境との関係>

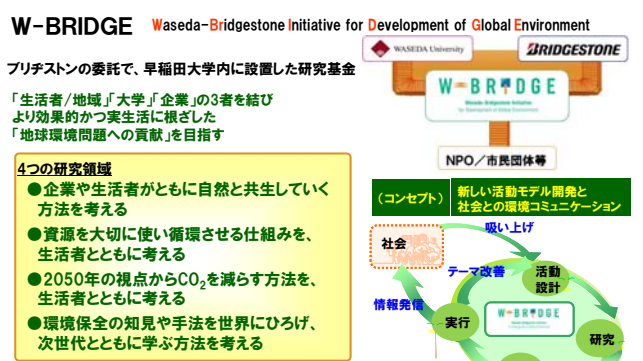


サプライチェーン・ライフサイクル全体で環境活動を推進

1-9. 環境長期目標に向けた取り組み



1-10. 「産」、「学」、「生活者」連携の新しい環境貢献活動

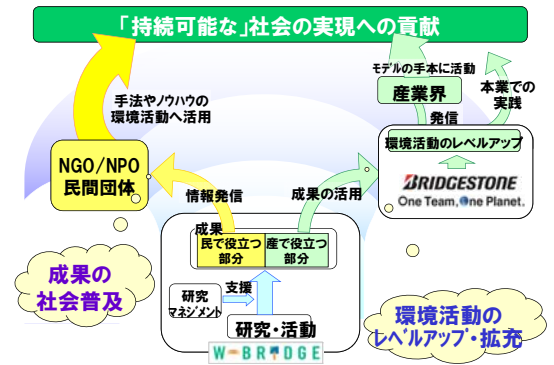


連携により得られる成果を環境経営に活用していく

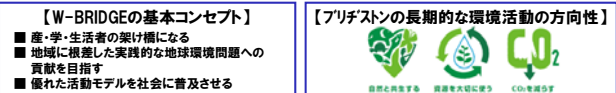
2. W-BRIDGE研究・活動概要

2-1. W-BRIDGEの目的

「民間団体」「大学」「企業」の3者結び、より効果的かつ
実生活に根ざした「地球環境問題への貢献」を目指す
＜W-BRIDGEのありたい姿＞



2-2. W-BRIDGEの研究領域



- 第4期以降の研究領域**
- 企業や生活者がともに自然と共生していく方法を考える
 - 資源を大切に使い循環させる仕組みを、生活者とともに考える
 - 2050年の視点からCO2を減らす方法を、生活者とともに考える
 - 環境保全の知見や手法を世界にひろげ、次世代とともに学ぶ方法を考える

・地球環境保全についての長期的視点を持ちながら、
地域の課題に生活者とともに取り組む研究・活動を期待
・ブリヂストンの環境活動との連携、補完による相乗効果を期待

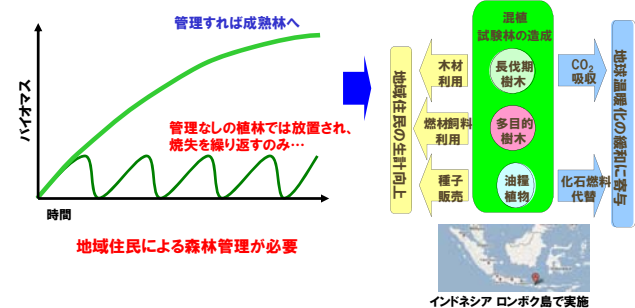
2-3. 第4期採択案件(15件)

研究・活動代表者	団体名	研究課題
早稲田大学大学院 環境・エネルギー科学研究科 藤澤 三	NPO法人 学村ネットワーク 大島守村 (農社連携)	企業CSRを通じた「農山村・都市」連携
早稲田大学 人間科学学術院 教授 森川 精	(財)国際緑化推進センター インドネシア国立ランタン・マンクラット大学	インドネシア南カリマンタン州の大森林公園における生物多様性修復
早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター 助教 教百 恵	WAVOC「農と食と緑の学校」における牧場・ラーンの森」	若者の持続的な意識の向上を促す森林体験ツアー構築に向けた研究
京城大学 地球変動圏科学研究所 機関 (IGAS) 准教授 田村 健	城西町高工農女性部 筑西市農工食の未来プロジェクト-部会	地域連携で生み出す持続可能なエコ・ネットワークSTEP3 -生活者が生み出せる「グッドプラクティス」の発信-
九州大学大学院 工学研究院環境都市部門 教授 島谷 幸宏	佐渡島加茂湖水系再生研究所	新潟県佐渡市 トキ舞う加茂湖の水辺再生プロジェクト phase2
大阪市立大学大学院 創造都市研究科 准教授 永田 潤子	NPO法人 中野リサイクル運動市民の会	女性生活者による3R活動による地域貢献について
早稲田大学 環境総合研究センター 准教授 小野田 弘志	生活協同組合コープおおい (社)日本自動車リサイクル部品協議会	利用者視点から見た3R(Reduce・Reuse)の普及促進に関する実証研究 ~地域共創型の社会システムの実現を目指して~
東京工業大学大学院 社会理工学研究科・価値システム専攻 教授 桑子 敏雄	NPO法人 国際ソーリズム協会	やんばる国領の森の水路再生・棚田ビオトープ整備による地域活性化プロジェクト
岩手大学 農学部 助教 伊藤 幸男	NPO法人 バイオマス産業社会ネットワーク	東北復興を契機に日本を持続可能な社会へ~バイオマス資源の適正利用を中心に~
早稲田大学大学院 環境・エネルギー科学研究科 准教授 結富 信	新宿区エコ事業者連絡会	学生と地域がともに取り組む環境ビジネスの創出
早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター 助教 加藤 基樹	WAVOC まつがい早稲田じよんび交流プロジェクト	学生ボランティアと地域活性化による環境保全の連携に関する研究
早稲田大学大学院 アジア太平洋研究センター 名誉教授 原 剛	日本環境ジャーナリストの会	大震災・原発事故VS科学・宗教-社会規範再形成への実証研究
早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター 助教 岩井 雪乃	WAVOC「海外ボランティアリーダー養成プロジェクト(ポルネオ)」	日本とマレーシアの国際交流による環境意識の育成
徳島大学 環境文化財調査 助教 遠部 慎	豊島鳥づくり委員会	豊島発 歴史・文化と環境学習融合プログラムの開発 ~自然がもたらぬ豊島を楽しみながら学ぶ人々の喜びと生活~

2-4. W-BRIDGEの研究・活動事例

「荒地の緑化によるCO2吸収とバイオディーゼルの原料生産の実証的研究」

研究代表者:早稲田大学人間科学学術院 森川 靖教授
活動団体:(財)国際緑化推進センター



＜成果の活用・社会普及の状況＞

- ・荒地緑化モデル(W-BRIDGEモデル)を論文に、現地政府へ提案
- ・ブリヂストンのインドネシアゴム農園周辺の生物多様性修復へも適用中

2-4. W-BRIDGEの研究・活動事例

「新潟県佐渡市トキ舞う加茂湖の水辺再生プロジェクト」

研究代表者:東京工業大学大学院 社会理工学研究科価値システム専攻 桑子敏雄教授
活動団体:佐渡島加茂湖水系再生研究所(カモケン)



多くの関係者を巻き込み、話し合いながら進めることで汚れた水辺の環境再生を実現

＜成果の活用・社会普及の状況＞

- ・日本感性工学会で学会賞を受賞、海外研究者にも高評価を得ている。
- ・小冊子、Webサイト、地方紙への記事掲載等による情報発信実施中

2-4. W-BRIDGEの研究・活動事例

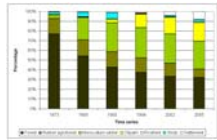


"Eco-certified Natural Rubber from Sustainable Agroforests in Sumatra, Indonesia"

研究代表者: World Agroforestry Centre (ICRAF, 国際機関) Dennis P. Garrity, PhD Director General
活動団体: Komunitas Konservasi Indonesia - WARSU



Land cover map of Bungo District, Jambi (2005 data)



Land use change in Bungo District, Jambi (1973-2005)

比較的生物多様性が豊かな混植栽培で栽培される天然ゴム(ジャングルラバー)の経済性に関する調査を実施

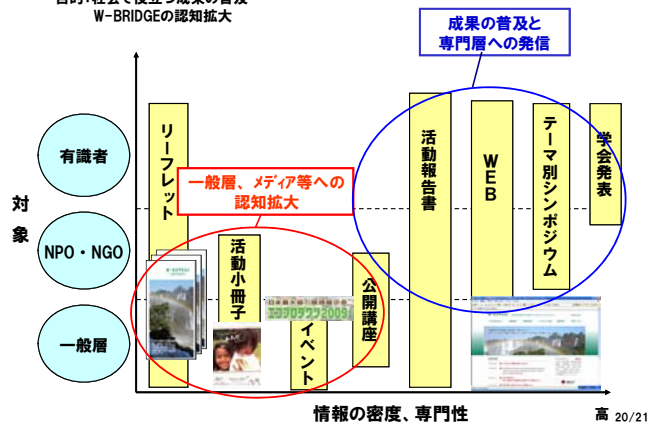
<成果の活用・社会普及の状況>

ブリヂストンとの小規模農家に対してゴムの木の栽培指導に関する共同プロジェクトに発展

3. W-BRIDGEの情報発信活動の状況



目的: 社会で役立つ成果の普及
W-BRIDGEの認知拡大



ご清聴ありがとうございました。

皆さまもW-BRIDGEの枠組みにご参加ください。
(研究・活動募集期間: 例年4月下旬~5月末まで)

詳しくはWebサイトをご覧ください
<http://www.w-bridge.jp/>